

第 35 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 28 年 5 月 20 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：防災教育：実践とその評価

1. 16:30-16:50 （発表 20 分）

タイトル：「防災教育が学校教育に定着するために必要なこと」

話題提供者：佐藤 健（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）

児童・生徒を対象とした学校教育における防災教育が将来的に定着するために必要なことを考える。子どもたちの学習意欲と学習効果を高めるために「地域に根差した防災教育」が教員ニーズとなっているものの教員による実践は決して容易ではない。自然災害は各地域の自然環境と社会の脆弱性に大きく依存する。しかし、教科書に書いていないローカルな地域理解とその教材化は、短期間で定期異動する学校教員にとって弱み（または負担）となる。そこで学校教員の弱みを補強する「地域の教育力」の発揮が必要不可欠となる。

2. 16:50-17:10 （発表 20 分）

タイトル：「防災教育の授業設計：外部支援者の視点から学習指導案を考える」

話題提供者：桜井 愛子・北浦 早苗（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）

外部の支援者によって始められる学校における防災教育が持続発展していくためには、支援者と学校教員との協働による授業設計が必要不可欠となる。学習指導案の作成により、授業目標と内容が対応しているかどうか、目標に応じた評価規準が設定されているかどうかを確認できる。学習指導案は、教材への理解を深めるだけでなく、子どもたちの実態や課題を捉え直し、学校や子どもたちの実情に応じたプログラムの「自校化」の機会となる。本発表では、大学研究者、教育委員会、学校教員等の協働により開発実践が行われている石巻市における「復興・防災マップづくり」プログラムの事例を踏まえて、総合的な学習の時間を用いて実践される防災教育プログラムの指導案開発の背景について紹介する。

3. 17:10-17:30 （発表 20 分）

タイトル：「目線を変えて可能性を探る減災意識啓発教育」

話題提供者：保田 真理（災害リスク研究部門 津波工学研究分野）

災害が起きると繰り返される「自分の地域にこんな自然災害が起きると思わなかった」という言葉。当然知っているはずの災害の知識だと思っているが、市民はそれほど危機意識を持っていないし専門家の話を聞く機会も少ない。知らないと損をする！？ やらないと大損をする！？ 自然災害の被害軽減対策を自分なりにやってみようと思わせる実践的防災の取り組みに持っていくことが不可欠。そこで、減災意識啓発のための教育補助ツールが大きな役割を果たす。

4. 17:30-17:50 (発表 20 分)

タイトル：「**減災アクションカードゲームを活用した自分で考える防災教育**」

話題提供者：久利 美和 (リーディング大学院 グローバル安全学トップリーダー養成プログラム)

「自分で考える防災教育」をテーマ、1) 児童生徒向けの実践とその教育効果、2) 教員・地域防災担当者向けの実践のための事前講習会と実践実績、3) 留学生など来日者を対象とした安全教育の一環としての地震・津波防災教育について、対象者別の実践比較とその効果について紹介を行なうとともに、既存の防災教育との相補的な効果についても、検討を行う。

5. 17:50-18:20 (質疑応答/総合討論 30 分)

6. 18:20-18:30 事務連絡など

司会・進行：久利 美和 (金曜フォーラム WG/リーディング大学院)